

体を使って 野生動物の生態を学ぶ

自然の中には生きた教材がたくさん存在しています。
目の前にある木々や草花なども、キャンプリーダーの一言で参加するキャンパーの興味や関心が引き出されます。
野外活動の中でも、準備物も少なく実施でき、大自然の営みについて学ぶことができるアクティビティを紹介します。

プロジェクトワイルド「お〜ディア!」

プロジェクトワイルドには、野生動物の生態についてシミュレーション（模擬体験）しながら学ぶことができるアクティビティがたくさん入っています。

その中でも、代表的なアクティビティの1つが「お〜ディア!」です。

○アクティビティのねらい

野生動物（シカ）の個体数は一定ではなく、食べ物、水、住む場所などの要因に影響を受けながら、常に変動しつつバランスを保っていることを学びます。

○進め方

- (1) 参加者に「人間が生きていくためには何が必要でしょうか?」と問いかけます。
- (2) 参加者から、いくつかの回答を引き出します。「では、鹿に必要なのは?」と続けて問いかけて、考えてもらいます。
- (3) 人間と鹿の必須要素に共通しているものが、「食べ物、水、家（住みか）」として意見をまとめます。
- (4) 参加者を「シカ」と「要素（食べ物、水、住みか）」の2グループに分けて、列を作ります。参加者に①から④まで番号を順に言ってもらいます。①がシカ役、②～④は要素役となります。
- (5) 「シカ」が生きていくための必須要素として、「食べ物」「水」「住みか」の3要素を用いることを説明します。
- (6) 3つの要素のポーズを説明し、練習します。

食べ物：両手でお腹を押さえる



水：グラスを持ったつもりで片手を口のところに持って行き水を飲むポーズ

住みか：両手を頭の上上げて三角を作る（屋根のポーズ）



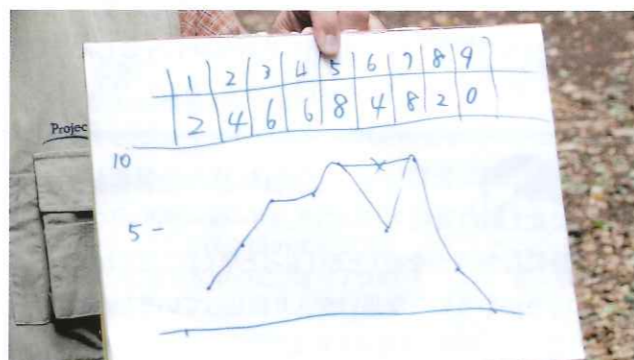
(7) ルールを説明します。 ※ルールは次ページ参照。

(8) 一度練習をして、次ページのルール②～⑥を10回ほど繰り返します。

その際、リーダーは、「次はどうなと思いますか?」など、次の回に起こるだろうことを参加者に推測させて下さい。また、要所で参加者に感想を尋ねてみるのも良いでしょう。例えば、「シカ」役にうまく「要素」が見つけれられた気持ちや、「要素」が見つけれなかった「シカ」役に気持ちを聞いてみて下さい。

(9) 毎回、「シカ」の頭数を数えて、メモに残しておきます。

(10) 10回ほど完了したら、シカの増減数をグラフで表します。1回を1年と考えます。横軸を「年」、縦軸を「シカの頭数」として、折れ線グラフを作ります。



(11) グラフを参加者に見てもらいながら、個体数の変化について気付いたことを共有します。人間の人口とシカの頭数について、その増減の違いを考えてもらうのも面白いかもしれません。

○ルール

- ①「シカ」役の列と、「要素」役の列に分けて向かい合ってもらいます。2つの列の距離を10～20mくらい離して下さい。
- ②合図をしたら外側を向いてもらい、相手側に見えないように3要素のうち、どれか一つを選んでポーズを作ります。
- ③次にファシリテーターが、「お〜ディア!」と合図をしたら、そのポーズを保ったまま内側を向きます。
- ④「要素」役の人はポーズでその場を動かさないで下さい。「シカ」役の人は自ら動いて、自分と同じポーズをしている「要素」を1人捕まえて元の場所に連れ帰ります。
- ⑤「要素」を見つけれなかった「シカ」は死んで、「要素」側へ移動します。「シカ」に食べてもらえなかった「要素」は、そのまま「要素」役を継続します。
- ⑥②～⑤を1セットとして、毎回「シカ」の頭数を数えて下さい。

その他のルールとして、シカを撃つハンター役の参加、自然環境の異変（干ばつで水がなくなる、住みかが開発によってなくなる等）を含めるとより、「シカ」と「要素」の関係性が理解しやすくなります。そして、人間の自然に対する関わり方も理解できるのではないのでしょうか。

自然に触れてその恵みをシンプルに感じることも大切ですが、それでは触れることができない部分を体験できると、その学びはさらに奥深いものとなります。

ぜひ、みなさんのフィールドでもお試しください。

プロジェクトワイルド
<https://www.projectwild.jp/>
プロジェクトワイルドは、一般財団法人公園財団が普及・開発をしています。
2019年は、導入から20周年となります。10月に、記念の講演会などがありますので、ご興味のある方はホームページをご覧ください。



関 隆 嗣

(公財)国際青少年研修協会職員/
(公社)日本キャンプ協会 キャンプディレクター1級
日本人・在日外国人と一緒に活動する野外活動などの交流プログラムを企画・運営に携わる。またこうした交流プログラムを支えるボランティアリーダーの養成も担当。
(一財)公園財団プロジェクトWILD シニアファシリテーター
(公財)河川財団プロジェクトWET ファシリテーター 日本バーベキュー協会 バーベキューインストラクター等。



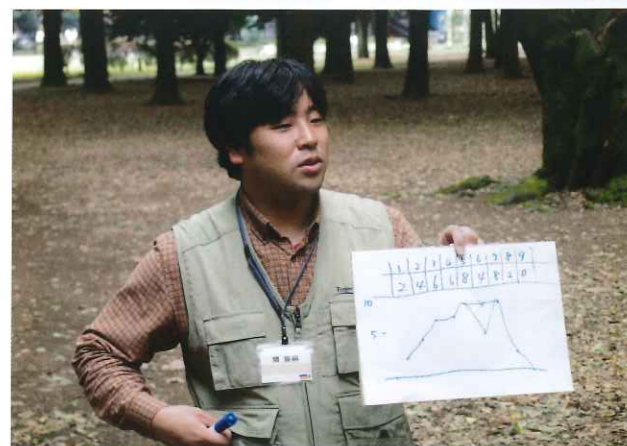
相手に見えないようポーズをとります



ファシリテーターの合図で内側を向きます



時には「シカ」が2頭になることも



結果から気付いたことの共有が大切です